

競技注意事項

1. 競技規則

本大会は2022年度日本陸上競技連盟競技規則および本競技会申し合わせ事項により実施する。また、日本陸上競技連盟の陸上競技活動再開についてのガイダンス「【第4版】競技会開催について（2022年5月2日）」に基づいて実施する。

2. 競技者案内所（T I C）

競技者案内所（T I C）を競技場正面玄関ホールに置き、次の業務を行う。

- (1) 各種問い合わせ、審判長への抗議・上訴の受付、落とし物の取り扱いなど。
- (2) プログラム訂正の受付
- (3) 持ち込み用具（やり）の受付、返却。
- (4) プログラム販売（1冊500円）。
- (5) マスクの販売（1つ100円）

3. 受付

- (1) 競技者受付は7時30分からT I Cにて行う。
- (2) 受付の前に、体調管理チェック表の提出をする（全員分を揃えること）。なお、提出のない者は競技会に参加することができない。
- (3) 受付の際には、プログラムと一般競技者にはアスリートビブスを配布する。
- (4) プログラムの記載ミス（氏名、フリガナ、学年、所属等）については、プログラム訂正用紙（T I Cで配付）を提出する。

4. 招集

- (1) 本競技会では、100mスタート後方のゲートより入り、招集所にて行う。
- (2) 各種目の招集完了時刻は、プログラム競技日程記載のとおりとする。
- (3) 競技場所への入場は100mスタート後方のゲートのみとする。
- (4) 招集の際、ユニフォーム、アスリートビブス、競技時に使用するシューズ、商標等のチェックをする。また、5.(2)の該当競技者には腰ナンバー標識の配布を行う。
- (5) 代理人による招集は認めない。2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、第1種目の招集時に招集所備え付けの「2種目同時出場届」を競技者係（入場ゲート係員）に提出すること。届け出が完了すれば、第2種目の招集を事前に受けることができる。
- (6) 欠場する場合は、本人または代理人が必ず競技者係に申し出ること。招集完了時刻に遅れた競技者は当該競技を欠場したものとみなす。
- (7) 競技場内への入退場は、すべて競技役員（競技者係・マーシャル等）の指示・誘導によって行う。また、出場する選手以外は競技場内に入らないこと。

5. アスリートビブス

- (1) アスリートビブスは、そのままの大きさとで胸と背部に確実に固定すること（跳躍競技については胸または背部どちらかでよい）。
- (2) 800m、3000mWの競技者は、腰ナンバー標識をパンツ右側の上部やや後ろにつけること。このカードは競技者係（入場ゲート）で受け取り、フィニッシュ後は返却する必要はない。さらに3000mWの競技者は、胸と背にレーンナンバー標識をつけること。カードを受け取っただけでは、招集完了とならないので注意すること。

6. 競技方法

- (1) トラック競技
 - ①レーン順はプログラム記載通りとする。
 - ②短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
- (2) フィールド競技
 - ①試技順はプログラム記載通りとする。
 - ②フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
 - ③助走路が使われるフィールド競技（走高跳を除く）では、助走路の外側に主催者が用意したマーカーを2個まで置くことができる。走高跳は競技者が準備したマーカーを助走路内に2個まで使うことができる。
 - ④サークルから行う投てき競技では、サークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意し

たマーカーを1個だけ置くことができる。これらのその撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。

- ⑤走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、以下のとおりとする。ただし、**審判長の判断により**練習の高さを含め変更することもある。

種目	練習の高さ	1	2	3	4		
男子走高跳	任意の高さ	1m65	1m70	1m75	1m80	2m00まで5cmずつ	以後3cm ずつ
女子走高跳	任意の高さ	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60まで5cmずつ	以後3cm ずつ
男子棒高跳	任意の高さ	3m00	3m10	3m20	3m30	以降10cmずつ	
女子棒高跳	任意の高さ	2m00	2m10	2m20	2m30	以降10cmずつ	

※男女共、持ち記録の高い選手がBポイントの試技となるので、Bポイント開始高さは現場で調整する。

- ⑥三段跳の踏切板は男子11m、女子8mの地点に設置する。ただし、天候などの状況によって、変更する場合がある。

- ⑦補助競技場での投てき練習は、砲丸投に限り概ね競技開始2時間前より行うことができる。その他の投てき種目については、投てき練習場（プール横）で、顧問・チーム責任者の立ち会い（指導）のもと行うことができる。（補助競技場での練習はできない。）棒高跳については招集開始時間から競技場内での練習を許可する。

(3) 抗議と上訴

競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、正式結果が発表されてから30分以内に、その種目に出場した競技者自身または代理人がT I Cまで申し出る。その抗議に対する審判長の裁定に納得ができない場合は、ジュリーに上訴することができる。その手続きは、「上訴申立書」を記入し預託金（1万円）を添え、T I Cまで申し出ること。

(4) 助力

- ①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出なければならない。（コーチング、トイレ等）

- ②ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーやスマートフォンもしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。

- ③コーチ等からの助言は競技場区域外（スタンド）のみとし、コーチングエリアは設けない。その際、そこで録画した映像を見せることは助力にはならないが、録画した機材（スマートフォン・ビデオカメラ等）を競技区域内にいる競技者が手に持って見た場合は助力とみなす。

7. その他

- (1) 競技で使用する用器具はすべて主催者が準備したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポール、やり投用やりは、個人所有のものを使用できる。やりの持ち込みについては、招集完了時刻の1時間前までにT I Cに持参し、返却もT I Cで行う。やりの持ち込み希望者は、招集完了時刻の1時間前までにT I Cに持参し検査を受けること。検査に合格した用具は一括借り上げとし、参加競技者で共有できるものとする。なお、競技終了後にT I Cで返却する。（TR32.2[国内]）。

- (2) スパイクピンの長さは9mm以内とし、走高跳・やり投は12mm以内とする。

- (3) 競技場に商品名のついた衣類、バッグを持ちこむ場合は日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規程」に順守すること。

- (4) 声を出しての応援、集団での応援を行わない。

- (5) スタンドからの撮影は、その選手の関係者のみ許可し、それ以外の撮影は認めない。また、撮影禁止エリアでの撮影は一切できない。

- (6) ウォームアップ場（補助競技場）への監督・コーチの入場は認める。ただし、雨天走路への入場は、混雑が予想されるので、認めない。

- (7) 競技場所からの退場は、フィニッシュライン（後方）のみとする。競技終了後、指定された動線を通り、手洗いを済ませてから退場すること。